

小室節とモンゴル人

小室節の生成

小室節は県内の代表的な民謡であり、独特な節まわしと朗々と歌う名曲で、全国で歌われている馬子唄や追分節のもとといわれている。

この小室節の研究に40年余りの歳月を費やした小諸市の長尾真道氏は、著書『正調小室(諸)節集成』の中で、「この唄の発生は、奈良朝末期にある。大和朝廷は政治、軍事、産業等に馬は欠かせない。この馬の増殖のため全国に勅使牧を作った。その代表的存在が小諸の御牧ヶ原である。御牧ヶ原は千曲川と鹿曲川にはさまれた広大な台地であり、標高750m程の高原で、溜池が350程もあり、紫外線が強く牧草が繁茂し馬の飼育に最適であった。ここで飼育した馬を朝廷に上納することを貢馬といい、貢馬の飼育には、多くの人たちが必要であった。この人たちが東北アジアからの渡来人たちである」と述べている。

モンゴル音楽の典型

モンゴルといえば、チンギス・ハーンと遊牧民族・騎馬民族の姿を連想する。確かにモンゴロイドの典型ともいわれるモンゴル族は遊牧民であり、モンゴリアは、まさしくその揺籃の地である。

東北アジア系騎馬民族のルーツは、このモンゴル族であり、モンゴル族の典型的な音楽は、「声による音楽」だと思ふ。中でも伝統的な音楽として歴史、信仰、

自然、愛情(家族・家畜に対する)などを歌った唄が多い。

これらの唄は、主としてオルテンドー(息を長く使う唄)によって歌われる。ほかにボギノドー(息の短い唄)もあり、さらに、ホーミーという極めて高い声と低い声の響きを同時に出す声の技法も口承されている。

楽器は元代を頂点として、アラブ・イラン系と中国系の楽器が継承され、もっとも著名な楽器は馬頭琴(モリン・フオール)であり、ほかに琴(ヤタック)・横笛(リンベ)・洋琴(ヨーティン)等がある。

モンゴル国立民族歌舞劇場で小室節を歌う、小室節保存会員ら



交流会で、花笠音頭を踊る訪問団員

小室節とモンゴル民謡

平成六年夏、小室節保存会と当会の共催による「小室節の源流を訊ねての旅」に参加して、モンゴル国を訪問した。ソ連製のプロペラ機(アントム24)で南ゴビに飛び、大草原で聞いた、動物への呼びかけ歌「は素朴で何処となく日本の民謡に似ていた。モンゴルの草原で放牧する家畜(五畜)馬・牛・羊・山羊・らくだ)に馬頭琴の伴奏で歌いかけると家畜たちはおとなしくなるといふ。ドキウメンタリー映画「らくだの涙」そのものであった。

また、ウランバートルの国立劇場でA.ネルグイさん(モンゴル国家名誉賞受賞)によるモンゴル民謡「小さな茶色の馬」と宮下順子さん(小室節全国大会優勝)の歌う「小室節」を聞いて、

小節や抑揚が本当によく似ていると思った。同行した竹島弓子さん(元信州大学講師)は訪問団記録に「オルテンドーはメリスマ(西洋音楽とは異なり、拍節を持たない自由な表現法)的な唄である。五音音階で音域が広い。楽節構造がよく似ている」と指摘している。さらに「馬頭琴は思ったより音域が豊かである。琴は日本の箏より音色が柔らかく、洋琴は音量が自由に調節できるのに感心した」とも述べている。

このことから、渡来人が望郷の思いを込めて祖国の唄を口ずさみ、それが馬の飼育を介して、御牧ヶ原の人たちの中に広がったとしたら、それは極めて自然な姿であり、それが小室(諸)生成に連なったとしても不思議ではない。

事務局 西澤 寛記

第80回 アカデミー賞外国語映画賞ノミネート作品

MONGOL
SLAVE.WARRIOR.EMPEROR.

Sergel Bodrov film
主演/浅野忠信

4.5 Sat. Roadshow

■映画MONGOL鑑賞のお薦め！
話題の映画「MONGOL」が4月5日から千石劇場(長野)にて上映されています。
映画鑑賞希望者は「会報モンゴル」を受付窓口で提示下さい、特別割引料金で鑑賞いただけます。